

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 2737 号	氏名	加藤 正子
論文審査担当者	主査 久光 正 教授 副査 田中和生 教授 副査 小風 暁 教授		
(論文審査の要旨)			
<p>食道癌根治術後の再発は 28-47%に認められ、生存期間中央値は 5-10 月と予後不良である。リンパ節などの局所再発に対してしばしば放射線治療が行われる。近年食道癌に対して胸腔鏡補助下食道亜全摘術が行われるようになってきたが、局所再発に対する放射線治療成績に関する報告は乏しい。そこで、加藤らは食道癌に対する同術後の局所再発に対する放射線治療の安全性と長期予後因子について検討した。対象は 2011 年 12 月から 2015 年 12 月の間に同術後の局所再発に対する放射線治療を受け、その終了後 3 か月以上観察した 24 例である。放射線治療は原則として 60 Gy 以上を処方し、11 例で化学療法を同時併用した。単変量解析の結果、手術標本での転移リンパ節が 3 個までの群と単発での再発群では有意に生存率が高かった。観察期間中央値は 12.5 ヶ月（範囲は 4.2 ヶ月から 47.7 ヶ月）であった。有害事象は許容範囲内であり、放射線治療は食道癌の胸腔鏡補助下食道亜全摘術後の局所再発に有用であることが示唆された。本論文は食道癌根治術後の局所再発に対する放射線治療に関する新しい知見を得ており、学術上価値のあるものであり、学位論文に値すると判定した。</p>			
論文題名：			
食道癌根治術（胸腔鏡補助下食道亜全摘術）後の再発に対する放射線治療の検討			
掲載雑誌名：			
昭和学士会雑誌 第 76 巻 第 3 号 掲載予定			

(主査が記載、500 字以内)